

第36課 ショートメッセージ 「ヨハネ誕生の約束」

聖書箇所：ルカ1：5－25

暗唱聖句：その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。

多くの人もその誕生を喜ぶ。（ルカ1：14）

今週の聖書教育誌の週題は「ヨハネ誕生の約束」です。ヨハネはアビヤ組の祭司ザカリアとアロン家の娘のエリザベトという共に祭司の家系の夫婦で、年老いてからようやく生まれた子でした。誕生の次第は聖書によれば、当時のエルサレムの神殿では、大勢の祭司が日ごとに神への供え物や祈りを献げる働きをしていました。二万人くらいの祭司が24の組に分かれ各組が半年ごとに一週間ずつ神殿での働きを担っていました。アビヤ組は8番目の組で千人前後の祭司が属していたと言われています。

この一週間の神殿での奉仕の中で、もっとも大事な職務とされていたのが、主の聖所に入って香をたく役目でした。この役目はくじ引きで決められ、一人の祭司がこの役目を担うのは生涯ただ一回と決められていたそうです。ザカリアはその生涯ただ一度の働きで他に誰も入ることが許されない聖所にひとり入り、特別に調合された香をたき、神にすべてのイスラエルの民に代わり祝福を祈り求めるという大切な働きが託されていました。そこに天使が現れ、香壇の右に立ち、驚くべきことをザカリアに告げたのです。

1:13 天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリザベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。」

天使は「あなたの願いは聞き入れられた。」と告げます。ザカリアの願いはどのような願いであったのでしょうか。主の掟と定めをすべて守り、「非のうちどころがない」と言われた人です。個人的な願いも勿論あったでしょうが、イスラエルの民への神の恵み、憐れみ、慈しみを与えてくださるように祭司としての祈りを献げ続けていたと私は思います。同様な祈りが他の祭司を通して何千・何万も献げられてきたことでしょう。今、このザカリアの時をもちいて神は救いの約束を成就しようとされました。

けれども、思いがけない出会いは目の前の起きている事が理解できず、不安におののくとしても不思議ではありません。

1:12 ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。

その動揺した心持ちのなかで振り絞るように言葉を出したのでしょうか。

1:18 「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」

ヨハネの誕生の約束といった私たちにも時として到底、信じることができず、受け入れることができず、思ってしまうことに遭遇することがあります。しかし、神のみ言葉は人の想いを遙かに乗り越えて働きを成就されるのです。人の限界、人の愚かさ・弱さにもかかわらず神の約束は果たされていくことが教えられます。

マラキ 3:1 見よ、わたしは使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたたちが待望している主は 突如、その聖所に来られる。あなたたちが喜びとしている契約の使者 見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。

福音書はイエス・キリストのお出でになる前に先立ってヨハネ(バプテスマのヨハネと呼ばれる)がイスラエルの民の前に現れたと伝えています。「先駆者」とも「先見者」とも言われるヨハネに神から託

された働きは、イエス・キリストの福音を理解できるように準備、備えの時をもつという役割なのです。**イザヤ 40:3 呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。**

ヨハネは「神の国が近い」と宣言しました。すべて誰であろうと、ユダヤ人や異邦人であろうと神の前に等しく罪人であることを告げて、これまでの生活を見直し、悔い改めて神に立ち帰るように説きました。そして、その悔い改めた証しとしてバプテスマ(洗礼)を受けました。荒れ野に道を備えることがヨハネの役割でした。

1:19 「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。」

キリストの先駆者としての役割を神はザカリアとエリザベトの年老いた祭司の家庭に授け与えました。

1:20 「あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」

ザカリアも私たちと同じく弱い人です。たとえ、喜ばしい知らせと分かって、み言葉を心の底から受け止めることはやさしいことではありません。み言葉に従うことに困難を覚えるときが多くあります。自分を見失わないための沈黙の時、静かに黙想の時も必要です。しかし、私たちの側がどうであれ、神の選びは完全で正しく揺るぎのないものなのです。

アドベント(待降節)の二週目を迎えています。私たち救われた一人ひとりがイエス・キリストの誕生の意味を改めて問い直す時でもあります。神の選びは不思議です。私たちにとって神との出会い、初めてのタッチは思い返せば不思議な出来事であったのではないのでしょうか。自分が選び取ったつもりでも、神が選び招いてくださったことに後になって気づかされるのです。

ヨハネの誕生は私たちが「**キリストの福音**」を「安価な恵み」(※)に変えてしまわないように「**罪の自覚**」「**罪の告白**」「**罪の悔い改め**」から目をそらすことがないように、また、自分を誇ることがないようにするための神の恵みの計らいだと私は信じています。

※【安価な恵み】

ボンヘッファーはその著書のなかで「安価な恵み」と「高価な恵み」について述べています。

「安価な恵み」は、悔い改めのない赦しの説教であり、**教會的訓練のないバプテスマ**であり、**罪の告白のない主の晩餐式**であり、**個人としての罪の自覚のない赦しの宣言**である。安価な恵みは、主に従うことを要しない恵みであり、十字架のない恵みであり、人となられた生けるイエス・キリストのない恵みである。

ディートリッヒ・ボンヘッファー著『主に従う(上)』より

● 分かち合い

- ・ 思いがけない事態に出会うと、どのように受け止めてよいか不安であったり、迷ったりするものです。そのような時にどのようにしておられましたか。
- ・ 罪とは「**的を外れ**」、すなわち神から目をそらす意味でもあります。そらしたいと思ったことはどなたもあると思います。そこから・・・よろしければ分かち合ってみましょう。

(担当：H.G.)